

## 3 研究の実践

## 事例 1 テレビ視聴

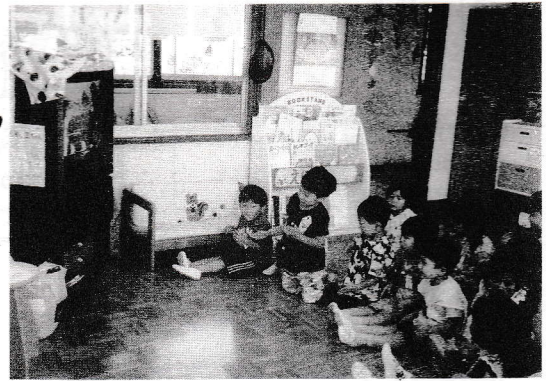
“こどもにんぎょう劇場「きかんしゃやえもん①②」”

## (1) 対象児

2年保育4歳児 18名(男児8名、女児10名)

## (2) 幼児の姿

初めての集団生活から次第に幼稚園の生活の流れが分かってきて、先生や友達と一緒にいることや同じ事をするのが楽しくなっている。また、物の取り合いや仲間に入りたくても入れてくれない等のトラブルや、イメージや意見の食い違いから遊びが中断してしまうこともしばしば見られた。



## (3) 一斉視聴

『きかんしゃやえもん①』 6月21日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング	「あっ、影みたい。」 「トーマスみたいだ。」	「本当ね。」とうなずく。	
曲と歌が流れる。	シュッシュッシュッシュッと手を動かす	教師も一緒に機関車の動作をする。	自分も機関車やえもんになったつもりで体を動かす。音楽に合わせて体を動かすことを楽しんでいる。
やえもんの顔のUP。	「おもしろい顔。」 「おばあちゃんみたい。」 「どうして顔が変わるんだろう。」	にこにこして見る。	
電気機関車にからかわれる場面。	真剣な表情で見ている。		
やえもんがかっかかっか怒った場面。(音楽)	子ども達もいっしょになって肩をいからせ、怒った表情でやえもんの動きをまねていた。	教師も幼児と同じ気持ちで動きをまねる。	やえもんと同じ気持ちで興奮している。
火事になってしまった場面。	静かになって真剣に見る。		火事になってしまった展開にびっくりしている。
「悪かった」と謝って終わる場面。	「ばかにしちゃいけないだよね。」と近くにいる子に話しかける。 「うん、やえもんがかわいそうだよ。」	「やえもんはどうなっちゃうんだろうね」と投げ掛けて終わる。	話の内容を理解して出た会話(やえもんを馬鹿にしたことから火事になったこと)

『きかんしゃやえもん②』 6月28日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
	登園してきたK子が、 「先生、あのやえもんのお話いつやるの？」と聞いてきた。  「わあい、やえもん今日やるんだって！」喜びながら、友達に知らせていた。  TVの前に座る。	「今日だよ」  「楽しみだね」	やえもんのテレビを早く見たいと心待ちにしていた。

オープニング	子ども達の目が輝きだし、それぞれがやえもんの話を始めた。  「顔が変わるんだよね。」 「鼻がおもしろい。」 「真っ赤になった。」 「火事になっちゃったんだよね。」 「だってしゃあのお声がおもしろかった。」 「早く見たいな。」	「そう、そんなにおもしろかったんだ。」  「さあ、これからやえもんのお話が始まるよ。」	一人一人が自分の思いを教師に聞いてもらいたい。
曲と歌が流れる。	曲に合わせて楽しそうに機関車の動きをする。	幼児と一緒に楽しく体を動かす。	やえもんのテーマ曲が大好きになったようだ。
先週の話の概要からお話が始まる。	静かに聞く。		
曲と歌が流れる。しだいにやえもんが怒って火事になってしまう場面。	曲に合わせてまた動きですが、手の動きを止めて静かに見る。  しばらく画面をじっと見る。		緊迫して声も出ない。
やえもんが泣く場面。	「かわいそう。」「泣いちゃった。」小さな声でつぶやいた。	同じ気持ちでいることをうなずきながら目で知らせる。	
屑鉄にならずに済んだ場面。	騒つく。		緊張がゆるむ。
やえもんの楽しい曲と歌が流れる。	音楽にのって楽しく踊る。	「やえもんが屑鉄にならずに済んだね。」	



視聴後も「きかんしゃやえもん」にとっても興味をもち、遊びの中で空き箱をつなげて、「先生、やえもんができたよ。」と作ってみせたり、絵に描いたり、粘土で作ったりしていた。この様子から、共通のイメージをもって友達同士が関わりながら楽しく遊びが発展していったらいいなと思い、ダンボール箱でやえもん機関車を作って、幼児の目に付くところに置いておいた。また、テレビからやえもんの歌をカセットテープに録音しておき、いつでも遊びの時に曲を流せるようにしておいた。

#### (4) 「やえもんごっこ」の遊びへ

7月1日(木)

幼児の遊びの様子	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
<p>登園してきたK美がやえもんに気づく。</p> <p>「わあ、先生、やえもんだ。先生が作ったの？」</p> <p>「ねえ、やえもんがいるよ。大発見だよ。」と次に登園してきたM子やS子に知らせていた。</p> <p>やえもんの顔を見て、 「ほら、笑っているよ。先生が作ったんだって！」とM男達に言うと、 「ダンボールで作ったんだよね。」と言いつつ、 「さあ、やえもんを乗せよう。」とM男とA子とJ男がやえもんを乗せ込み、床をずるように走る。 「きかんしゃやえもん、出発！」</p>	<p>気付いてほしい。</p> <p>他の幼児にも知らせしてほしい。</p> <p>遊びが盛り上がってほしい。</p>	<p>「うん、そうだよ。」</p>	<p>とても喜んでいる。</p>

<p>その様子を見ていた他の幼児も「ぼくも乗りたい。」「わたしにも乗せて。」と次第に遊びに参加する幼児が増え、廊下やお部屋の中を走り回っていた。</p> <p>「怒ったしゃあー！」と言いながら、スピードを出して走る幼児や、椅子に座って順番を待つ幼児が見られた。</p> <p>しばらくやえもんごっこの遊びが続く。</p> <p>N也が残っていたダンボール箱をみて、「先生、これで新幹線を作りたい。」と言出す。</p> <p>「こういう風にとがっているんだよ。」と手振りで示した。</p> <p>そばでみていたN男が図鑑を持ってくる。</p> <p>N男「ここに丸いのが付いているよ。」</p> <p>さっそくオレンジ色のカップを持ってきてあててみると、N也が「こだま号だ。」と喜ぶ。</p> <p>その後、ダンボール箱を絵の具で塗っていると他の5、6人の幼児も一緒に手伝った。</p> <p>また、箱をつなげる事でガムテープにするか、紐でつなげるか意見が対立したとき、M子が、高さが違うから紐でつなげたほうがよいという意見を言う。</p>	<p>具体的にイメージをしているものを引き出したい。</p> <p>イメージにあった物があるといいな。</p> <p>いい発想だな。他の幼児にも興味をもってほしい。</p> <p>子ども達の意見を尊重したい。</p>	<p>危険のないように見守ろう。</p> <p>やえもんの歌を流す。教師も一緒に共感したり、お客さんになって参加したりする。</p> <p>「どういう形をしていたっけ？」</p> <p>「絵本とか図鑑で見てもよ。」「こんな感じかな？」ダンボール箱を三角に折り曲げてみせた。</p> <p>「いいところに気が付いたね」と認め、「じゃあ、あの箱の中に何かあるかもしれないよ。見つけてきてごらん。」とヒントを与えた。</p> <p>教師もその意見に賛成して紐でつなげることにした。</p>	<p>おもしろそうだから仲間に入ってみよう。</p> <p>テレビ視聴をしたときの場面を思い出して表現をしているのだろう。</p> <p>やえもんの機関車をヒントにダンボール箱で電車を作ってみたくなった。</p> <p>絵の具で塗るのは楽しそうだ。</p> <p>信頼のあるM子と教師も賛成したことでみんなも納得した。</p>
---	--	---	---



降園時に、今日の遊びの中で『やえもんごっこ』について触れ、みんなでやえもんに乗って遊んだ事や新幹線を作った事を話すと「おもしろかった。また乗ってみたい。明日もやりたい。」という意見や「駅や線路がないとだめだよ。」という意見もでた。そこで、明日は園庭に線路や駅を作って遊ぶ事を約束して降園した。



7月2日(金)

園庭にやえもん機関車と新幹線を並べておいておく。朝登園してきた子ども達は着替えもそこそこに乗り物で遊び出した。運転手になりたがる幼児が多く、取り合いのけんかになったり、スピードを出しすぎて後ろに乗っていた幼児が転ぶ等のトラブルが生じた。そのため、どうしたらよいかを一緒に考えたり、ヒントを与えたりして遊びがおもしろくなるよう援助した。また幼児と一緒に線路を描いたり、駅を作ったり他の幼児も誘ったりして園庭での電車ごっこに遊びが広がった。

(5) 気付いたこと

- ・オープニングの場面で子ども達の興味がある乗り物の話だったことや“機関車トーマス”に似ていたことで親しみを感じた。

- ・この人形劇は普段見慣れていない影絵を使ったお話で、やえもんの顔の表情が変わるところや、火事になったり怒ったりすると赤く画面が変化するところなどがうまく表現されていた。
- ・「ぼくだってしゃあ、むかしはしゃあ」「おこったしゃあ」の言葉遣いが繰り返し使われていておもしろく、興味をもった。
- ・途中で何度か流れる曲がテンポ良く、自然に体が動き楽しくさせた。
- ・火事になってしまったとき、「どうしよう」「たいへんだ」と緊迫した気持ちになり、しくしく泣いて困っているときや屑鉄にされてしまうのではないかというときには、無言になって画面に見入り、「かわいそう」という言葉が出たり、主人公と同じ気持ちになっているのが幼児一人一人の表情から伺えた。
- ・2回に渡ってのお話だったが、楽しみに待つ姿があった。
- ・“きかんしゃやえもん”のお話を通して共通の話題ができ、友達とかかわって遊ぶきっかけになった。



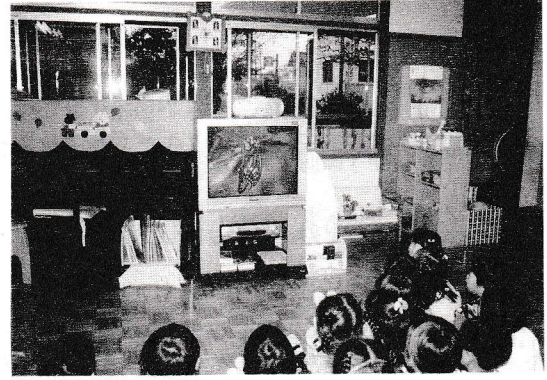
事例 2 ビデオ視聴  
“いきもの図鑑「あげはちょう」”

(1) 対象児

2年保育4歳児 18名 (男児8名、女児10名)

(2) 幼児の姿

久しぶりの幼稚園で、うれしそうに登園してくる幼児や夏休みの出来事を教師に話そうとしている幼児やちょっと緊張が見られる幼児等様々な様子が見られた。また、花壇には6月末に蒔いたニンジンの種が発芽し、夏休みの間に葉が大きく成長していた。ニンジンの種を蒔く前にハツカダイコンを収穫した際、葉にモンシロチョウが卵を産み付け、あおむしの幼虫がたくさん産まれた。その時幼児と共に幼虫を飼育ケースに入れ、さなぎから羽化して蝶になるまでを観察した経験がある。



(3) キアゲハの幼虫を発見

9月1日 (水)

幼児の姿	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
N男「先生、葉っぱに何か虫がいたよ。」  ニンジンの葉を指差す。  N男とM子が早速昆虫図鑑を持ってくる。  「先生これじゃない?」「これかな?」 花壇のそばで幼虫と見比べながら探していた。  J男「持ってみたいよー。」	誰か気付いてくれるといいな。  他の幼児にも知らせたい。  モンシロチョウの飼育経験が生かされるといいな。  昆虫が大好きで好奇心旺盛なJ男の欲求を満たしてあげたいが触っても大丈夫なものかどうかを聞いてからにしよう。	「えっ、どこにいたの? 教えて!」  「わあ、本当だ。ねえ、みんな! N男君が虫を発見したよ。」  「何かの幼虫だね。図鑑で調べてみよう。」 幼虫が載っているページを開き、「どの幼虫かな?」と幼児と一緒に探す。  「アゲハチョウの仲間だねほら、似ているでしょ。ニンジンの葉っぱにいるのはキアゲハと言うチョウだって書いてあるよ。」  園長先生や主任先生に何い触っても皮膚等には大丈夫だが触ると弱って死んでしまうということなので子ども達には見るだけにする話を話す。	N男は虫にたいへん興味をもっている幼児なので、すぐに気が付いた。            以前、カマキリのあかちゃんを握っていて死にかけた事があったので、かわいそうだという友達の忠告を素直に聞き入れた。
J男「やだ、持ちたい。」と言い張った。  K子「そうだよ。死んじゃったらかわいそうだよ。」J男は渋々納得した。	生命の大切さをわかってほしい。	「人間の手で触っていると弱って死んでしまうんだって。だからそうっとしておいてあげようね。」	

H男「先生、これ何？」黒い幼虫を指差して聞いた。	よいことに気が付いてくれた。図鑑に載っているのと比べてみよう。	「これも幼虫なんだよ。ほら、図鑑にも載っているよ見てごらん。」幼児と一緒に卵から成虫になるまでの経過を目で追う。「よく知っているね。M子ちゃん。」	自分の知識を教師に伝えたい。
M子「卵から幼虫になって、さなぎになって、皮を破いてチョウになるんだよ。」			



9月2日(木)

幼 児 の 姿	教 師 の 願 い	教 師 の か か わ り	読 み と り
<p>登園して身仕度がおわったT男が、「先生、幼虫がチョウになっているか見てくる。」</p> <p>「まだ幼虫だった。」</p> <p>「こんなに大きいのがいたよ。」</p> <p>「ここにもいた。」</p> <p>J男が糞を見つけて、「うんこがあった」とうれしそうに笑いながら言う。周りの幼児も興味深く近づき、「何処何処？」と一生懸命糞のある場所を探していた。</p> <p>J男「幼虫が今うんちをしたよ。」</p> <p>K子「本当だ。ここ見て！みんな食べちゃって葉っぱが棒だけになっちゃったよ。」</p> <p>M子「それでさなぎになって皮を破ってチョウになるんだよね。」</p> <p>J男「あっ、オレンジ色のつのをだした。おもしろい。」棒で突いたり葉っぱで突いたりしてつのを出すのを面白がっていた。その内、「何か臭いね。」と口々に言いだす。</p> <p>K子「そんなに突っ突いちゃ駄目だよ！」</p> <p>一緒になってつの出しを楽しんでいたT也やN男もK子や教師の言葉にはっと気が付き突くのをやめた。</p>	<p>幼虫に興味をもってかかわってほしい。</p> <p>幼虫の生態を知る手がかりになるので、よく観察をしてほしい。</p> <p>幼虫が食べた葉の様子にも目を向けたい。</p> <p>生きているものへの思いやりも育てたい。</p>	<p>「どうだった？」</p> <p>「わあ、昨日よりも大きくなっているね。」と幼児の驚きや気付きを受けとめる</p> <p>「すごく大きいうんちをするんだね。」とびっくりする。</p> <p>「ほら、この幼虫、葉っぱのご飯を食べているよ。」</p> <p>「本当ね。たくさん食べて大きくなるんだよね。」</p> <p>「モンシロチョウの時もそうだったね。」</p> <p>「そうね。みんなが突っ突くので幼虫が恐がって角や臭いを出すんだよ。」とわかるように話す。</p> <p>「そっとしておいてあげようね。」</p>	<p>昨日の経験が虫への興味につながっている。</p> <p>幼虫も自分たちと同じように糞をすることを知った。</p> <p>モンシロチョウの飼育した経験を思い出し、している。</p>

#### (4) ビデオ「あげはちょう」を見てみよう (一斉視聴)

キアゲハの幼虫はニンジンの葉をほとんど食べつくし、色も黒から黄緑と黒のしま模様をした色あざやかな幼虫に変化し大きさも5cmぐらいまでになっていた。子ども達は、あちこちでこの幼虫がニンジン畑から移動しているところを発見したり、壁に昇ってじっとしているところやさなぎになって糸を出している場面に遭遇したりして、関心が非常に高まっていた。このように、ニンジンの種を蒔いて栽培したことからキアゲハが葉に卵を産み、幼虫からさなぎへやがて成虫へと変化するところを毎日の生活の中で見る事ができた。そこで、「いきもの図鑑『あげはちょう』」のビデオをしてみることにした。

9月20日(月)

ビデオの場面	幼 児 の 言 動	教 師 の か か わ り	読 み と り
野原でアゲハチョウが翔んでいる。	チョウがひらひらしているのをまねる。「うちにも翔んでた。」	楽しそうな表情で見る。時々幼児の発言にうなずく。	親しみをもって見ている。
アオスジアゲハが翔んでいるところ	「あっ、幼稚園にいたよ。」		

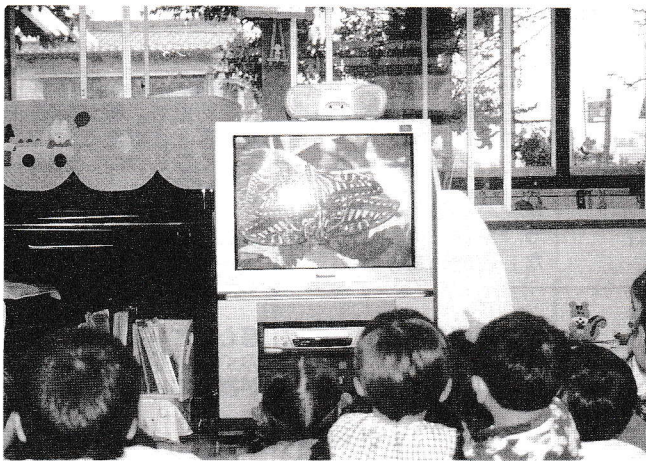
おしっこをする。	「おしっこした。」		
花の蜜を吸うところ。	「おいしいよ。」 「吸ったことあるよ。」		
カマキリがチョウを狙っている。	「あっ、カマキリが狙ってる。」 子ども達が緊張した面持ちでみている。	『あっ、どうしよう』という表情をする。	
チョウが2匹で翔んでいる。	「絡まっちゃった。」 「雄と雌だ。」	にこやかに目を細めて見る。	交尾の場面で、何となく結婚をするという意味に漠然ととらえている。
葉の上にチョウが卵を産み付ける場面。(黄色く真丸な卵)	一瞬息をのんで見ていた後、「お月さまみたい。」と感想をもらす。 「柄が見える」	『あー!』『わあ!』感嘆語意外に言葉がなかった。感動して一点に引き込まれていった。	感動して思わず出た言葉である。
殻の中から幼虫が出てきた。	「わあ、出てきた。」画面に引き付けられていた。		
幼虫が殻を食べて出てくる。	「栄養があるの?」	「うん。そうだね。」 『先生も初めて見たんだよ』という気持ちを込めて伝えた。	自分の殻を食べるシーンを見て不思議に思い自分なりに考えて言った言葉である。
1れい幼虫から脱皮してしゅうれい幼虫へ。	「脱いでチョウチョになるんだよ。」 「はだかになっちゃう。」		
	「うーん、よいしょ。」と皮と脱ぐ所では幼虫と一緒に力が入っているような表情をして見守っていた。 「あおむしだ。」	幼児と同じ気持ちで見守る。	
オレンジ色のつを出す	「幼稚園にいるのと同じだ。」		実際につを出すことを経験していることから出た言葉。
幼虫からさなぎへ。	「同じだね」	うなずき、「糸が見えるね。」と画面に集中させる。	
さなぎから成虫へ。(音楽が流れる)		感動して食い入るように見る。	
さなぎのからだ縦に割れたとき逆さになって羽を乾かしている場面。	「あっ、われた。」画面に集中する。 「でた。でた。」「まだ翔べないんだよね。」「出たばかりだからね。」などと近くの友達と話す。		自分の持っている知識を言葉に表している。
チョウの羽のUP。	「きれいだね。」	「うん。」深くため息をつく。	

## 5) 視聴後の幼児の姿

毎日、朝登園してくるとニンジン畑をのぞき、幼虫がどうなったか見て「昨日よりも大きくなったよ。」「葉っぱがだんだんなくなってるよ。」などと様子を知らせにきたり、遊んでいるとき地面をはっている幼虫を見つけて「先生、こんな所に幼虫が歩いている。」とか、「先生、壁につかまっている幼虫がいるよ。」など子ども達の気付きによって幼虫が移動してさなぎになる準備をしていることがわかり、急いでさなぎになる場所を作ってあげることにしたがこちらが思うような場所ではさなぎにならなかった。ある時、年長組さんの畑で、まさに幼虫が皮を脱ぎさなぎに変わろうとしているところを年長組の幼児が発見し知らせてくれたので、みんなに声を掛け、見に行った。それは一瞬の出来事だったので、一部の幼児しか体験できなかったが貴重な経験ができた。その後も様々な場所でさなぎになっているのを見つけ、いつアゲハチョウになるのかなと時々幼児と様子を見に行き、チョウになる日を楽しみに待った。ある朝、さなぎからチョウになってとまっているのを発見し、羽を広げて翔んでいく姿を幼児と共に感動的に見送った。その際、「チョウチョさん。元気だね。」「カマキリに食べられないようにね。」「幼稚園にもまた遊びにきてね。」等と口々に親しみを込めて言葉を掛けていた事が印象的だった。

## 6) 気付いたこと

- ・保育室のすぐ前に畑があり、いつでも幼児の目に触れることができたため、ハツカダイコンやニンジンなどの野菜を栽培したとき、毎日畑に行き、芽が出たかな？、土が乾いているから水をあげよう、葉っぱが大きくなったなど関心をもってみるようになった。このことから、モンシロチョウやキアゲハの卵や幼虫を幼児自ら発見することができた。
- ・一人一人家庭での経験や知識の違う幼児が、幼稚園で生き物のありのままの姿に出会い、実際に触れたり、間近に見たりしたことで、ワクワクドキドキしたりして心を揺り動かされ、教師や友達と感動を共有することができた。またわからないことを図鑑で調べたり、ビデオで認識を新たにしたり、再確認をしたり、その後もよく見ようとする気持ちが芽ばえた。
- ・同じ体験ができたことで、教師や友達に思いを伝え合う喜びを感じることができた。
- ・キアゲハの成長を通して、生き物への関心が高まったと同時にやさしさや思いやりの気持ちが芽生え、言葉遣いや行動が乱暴だったJ男も友達に対してやさしく接することができるようになり変容が見られた。





事例 3 ビデオ視聴  
 “しぜんとあそぼ「にわとり」”



(1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

(2) 幼児の姿

年少の頃から園で飼育しているチャボやウコッケイと喜んで触れ合っていた。年長組の飼育当番が刻んだえさを一緒にあげたり、チャボを抱っこしてかわいがったり、産みだての卵を順番に持って帰るのを楽しみにしていた。

年長になり、春休みに産まれたひよこに大喜びで毎日のように飼育小屋に通う幼児が多くみられたが、中には無理に抱いたり追いかけたりしてしまう幼児もいた。

(3) 一斉視聴

『にわとり』 5月10日(月) 13:00~13:15

♥幼児たちがいま興味をもっているニワトリに対し、さらに詳しく知ることで、より興味を持ったり、いたわりの気持ちを持って接して欲しい。また、これをきっかけに飼育当番への意欲を掻きたて、自ら進んで世話をしようという心が育って欲しい。

ビデオの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング	「あ！ニワトリ！」	幼児たちと共に、うれしい表情で見る。	自分たちの良く知っているニワトリが出てきたことに喜んでる。
親子で散歩の場面 ・「なにかニョロニョロしたもの見つけたぞ？ミミズだ！」 「長くて食べにくい」 ・「砂浴びをしてるんだ羽の中まで砂だらけ」	「かわいい！」 「いっぱいいる」 「ミミズだ」 「おそばみたい」「スパゲッティー」 「つるるんって食べてる」 「くろちゃんみたい」 「気持ち良さそうだね」「お風呂だ」		食べ方を面白がっている。 園にいるチャボとダブらせている。
産卵の場面 ・「お尻をヒクヒク、何が始まるのかな？」 ・「あ、見て見て、卵するっと卵が落ちる。」「ニワトリって、こうやって卵産むんだね」 ・くちばしで、卵を抱える。「大切に、大切におなかの下にしまいこむお母さんニワトリ」 ・「こうして3週間、ずっとおなかの下で卵を温め続けるんだって」	不思議そうに見ている。 T夫「あっ、卵でてくんだよ！」 「あー！」声を揃え、拍手。 「きれいだね」「つるつるしてる」 「あ、卵抱くんだよ」 「コツコツっておなかに入れてる」 じっと見ている。 「ふうん」	幼児と同じく驚きで目を輝かせる。 母どりの様子に気付くよう「あれ？何してんのかな」と問い掛ける。 「3週間もだって！」と驚く。	最初何だか分からなかった幼児も、卵が突然産み落とされたことにびっくりしつつ、感動している。
卵の孵化の場面 ・「ピョッピョッ」と卵の中から聞こえる。 ・コツコツと音がし、外側の殻が破れ内側の白い皮が見える。 ・「中のひよこが現れ始めた。…何時間もかか	聞耳をたてる。 「あー！」とびっくりする。 「ひよこが出てくるんだよ！」 「ひよこだ」 「くちばしだ」	「あれ!？」と注意を促す。	感心している反面、どのくらい長いのか感覚が掴めていない。 卵が返るのだとすぐに察し、期待感で満ち溢れている。

<p>って一生懸命殻を割るんです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「後もう一息だからねがんばって」</li> <li>・「やったあ！とうとう出てきました」</li> </ul>	<p>真剣な表情で聞いている。「がんばって！」ハラハラした表情で教師を見る。</p> <p>「出てきた！」と皆で大拍手。笑顔で画面を見つめたり、周囲と視線を合わせたりする。</p>	<p>「がんばってるね」と頷く。喜びの表情を交わす。</p>	<p>なかなか出てこないことにじれったさを感じている。ひよこがやっと生まれたことへの喜びを共感している。</p>
--	--	--------------------------------	--



視聴直後、どんなところがおもしろかったかの教師の問いに、「卵がコツコツってわれたよ」「でも、すぐ出てこなかった」「ミミズをおそばみたいに食べてたよ」などそれぞれに印象に残った場面を教えてくれた。

また、卵を温める3週間という長さを身振りで伝えると大変驚いて、「ずっとなの？」「すごい！」と母どりに対する感心や尊敬の声があがると同時に「くろちゃんも、このまえの時こうやってたのかなあ」「あっためたんだね」「3週間も？」「いつもおなかに入れてるよ」と園にいるチャボに対する言葉も聞くことができた。

翌日から始まる飼育当番に対しても「皆で育てれば大きくなるよね」「早くやりたいなあ」と期待が膨らんだ様子だった。



翌日最初の飼育当番になったH子は、家からたくさんのお水を用意してきて、朝から「飼育当番やる」と意欲的に取り掛かった。他の幼児もまわりによってきて「小さくしてね、ひよこちゃん用に」「いいなあ、あたしもやりたいなあ」「ぼくも一緒に行きたい？」と関心を示していた。

また「ミミズが好きなんだよ」「先生、ミミズの方が喜ぶよ」と、自分たちでたくさんミミズを探してきては、「ほんとにおそばみたいに食べたよ！」「もうたべちゃったよ！」「足りないんだよ」と、放送の内容を思い出してやってみる幼児もいた。

飼育当番を順番にしていくことで、それまで恐くて関わろうとしなかった幼児も、手で水をあげようとしてみたり友達に教わって抱っこしてみたりするようになってきた。毎日飼育当番についていって一緒に水を替えたり無理に抱いたり追いかけてたりする友達に「いたいよ」「今いやだって」と注意する幼児の姿もみられる。

#### (4) 気付いたこと

- ・自分たちが毎日触れ合って親しみをもっているニワトリの内容だったので、より高い関心をもって見ることができた
- ・産卵や孵化の瞬間の驚きやじれったさの感情を友達と一緒に味わうことができた。また、テレビの中のニワトリや園にいるチャボに対しても共感する姿が見られた。
- ・視聴後、チャボへの親しみや思いやりが増し、やさしく関わったり、自分から世話をする幼児が多くなったことからちょうど幼児の生活にあっていた内容だったのだと思う。

## 事例 4 紙芝居視聴 “ディズニー名作劇場「力持ちのポール」”

### (1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

### (2) 幼児の姿

ちょうど運動会のシーズンで、この日は初めて綱引きの練習をした。保育室に帰ってからも「カー杯ひっぱったんだよ!」「もっともっとお弁当食べて、力つける!」「先生、ぼく力持ちだったでしょ?」と口々に興奮を語っていた。

幼児たちが自分の腕の力を意識していた様子から、おもしろく聞けるのではないかと思い、この話を読み聞かせることにした。

### (3) 一斉視聴

『力持ちのポール』 9月16日(木) 降園時

紙芝居の場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
赤ちゃんのポールが、ミルクを飲ませてもらう。	「これくらい?」と手で大きく身振りしたり、「このお部屋くらい?」「幼稚園より大きい?」「あ、分かった、宇宙くらいだ」「無限くらい?」と想像をめぐらす。	降園時、皆が集まったところで「今日はね、ものすごく大きな男の子のお話だよ。どれくらい大きいか、分かる?」と問い掛ける。 「じゃあ、これからお話するから、どんな男の子なのか、よく見ててね」と始める。	これから始まる物語の主人公に対する、興味が湧いてきた。
ポールの足に選ばれて子どもたちが学校へ通う。	A夫「うわあ、おおきい!」と思わず呟く。 他の幼児も驚いたような感心したような表情で笑いながら見つめている。		場面から、ポールの大きさがすぐにどの幼児にも感じ取られたようだ。
もらった斧で、皆のために一生懸命木を切り倒したり、綱を引っ張って曲がった川の流れをまっすぐにしたりする。	C子「いいなあ、あたしも乗りたい」  どの幼児も真剣に見入っている。	「そうら、もうひとつ」「カーン!」「よいしょよいしょ」の部分は特に力を入れて、重みや力強さが伝わるように読む。	物語の中に入り込んで楽しんでいる。
町の人とポールが、お互いに感謝の気持ちを伝え合う。	N夫、J夫は握りこぶしで「よいしょ、よいしょ」と小声で教師に合わせて呟く	丁寧に、思いを込めて台詞を読む。	ポールのすごさをそれぞれに感じている。
機械と競争して負けたポールが、別の町を作り旅立つ。	すがすがしいような、嬉しいような顔  それまで笑っていた表情がなくなり、深刻そうな目でポールを見つめる。	ポールの淋しさ、落胆を充分に伝えると共に、気持ちの切り替えをはっきりと読む。	ポールの力強さや一生懸命さを体で感じている。
「今でもかみなりがなると……ポールを思い出します。」	A子、E子「…なんかかわいそう…」  N夫「先生、ぼくそれ聞いたことがあるよ」 A夫「おれも。あっちのほう」 K子「え…でもアメリカっていったよ」	「そう、もしかしたら、ポールかもね…」とその気持ちを認める。	相手に感謝する心の気持ち良さが少しでも伝わるといいな。
			物語の展開や雰囲気をよく理解し、ポールの気持ちに共感している幼児が多いようだ。
			主人公をととても身近に感じる事ができたんだな。



視聴後、余韻を持たせて扉をしめると、幼児たちの方から「なんか、ポールかわいいそう」「先生、ポールになりたい」「ポールと知り合いになりたい。幼稚園に早くこれるし。」「それにおもしろそうだよ」「すごいね、だって川なおすんだもん」「こうやって木を切ってた」「ちからもちなとこがすごい」「機械と勝負して負けたけど、他の町にいったよ」と、口々に感じたことを教えてくれた。

「皆もポールみたいになれるのかなあ」と教師が尋ねると、「えー！、どうやって!?!」「なれるよ、だって力持ちだもん」「今日、綱引きで勝ったじゃん」「分かった、これから毎日うでたてふせして、筋肉もりもりになればいいんだよ」と、ポールの力持ちな所がやはり印象的だったようで、「じゃあ、綱引きも今日みたいに皆でがんばればすごい力持ちになれるかもしれないね…」「うん!」と各自が意欲をもって降園した。

#### (4) 気付いたこと

- 主人公の体の大きさや、力の強さからくる物語のおもしろさと同時に、自分も話の中にいるような、反対にポールが本当にいるような、不思議な気分を十分に味わうことができたようだ。また、数人の幼児は何となくではあるが、ポールの心の痛みを感じることもできたようである。
- 「ポールみたいになりたい」という幼児の言葉に、ただ力持ちであるというだけでなく、教師の話のもっていき方は「人のためにやること」「あきらめないこと」も気が付くことができたのかもしれない。

